

Nā hali‘a aloha ma Ka Haka ‘Ula o Ke‘elikōlani
(The cherished memories in Ka Haka ‘Ula o Ke‘elikōlani)

夫 明美

E nā kānaka mai ka lā puka i ka hikina a ka lā welowelo o Lehua, aloha mai kākou.

2021 年度より当センター長をつとめる夫明美です。昨年度はサバティカルの機会を得て、ハワイ大学ヒロ校のハワイアン研究科 Ka Haka ‘Ula o Ke‘elikōlani で 1 年間過ごしてまいりました。拙稿開始部のあいさつは、「日が昇る東（ハワイ島）から、日が沈むレフア島の皆様へ Aloha」という意味です。教育という共通の場で重責を担い続ける関係者のみなさまへ、敬意をこめてお送りします。

言うまでもなく、昨年より続くコロナ禍で、教育現場も刻々と変わり続ける状況に、対応を続けております。私のサバティカル生活も、すべての授業と面談がオンラインで行われ、対面でのふれあいは皆無に近いものでした。当初の研究計画とは大きく異なる現実に直面して、戸惑いと不安を感じることもありました。しかし、学びの場を守り続けようとする教員の努力と熱意と、自分たちのベストを尽くしながら学びを継続する学生たちの粘りを画面越しに観察し続ける貴重な機会となりました。それと同時に、対面式の授業が行われていた時期である「before time」で、クラスメイトとの何気ないお喋りや、授業前後の共同学習がどれだけ大きな支えになっていたかも痛感しました。実際、大量の宿題やスピーチの練習に対面で助け合えない事で、非常に困りました。

Research advisor である Dr. Kekoa Harman が担当されるハワイ語クラスを観察・周回の参加する機会に恵まれて、「言語と文化を統合した授業・環境づくり」について、数多くの貴重な経験を得ました。例えば、研究科全体および授業内の朝礼では、ハワイ国歌を始めとする歌の斉唱、担当者によるスピーチがあります。スピーチでは頻りにハワイの格言が引用されて、その意味合いと現実的な実践方法についてもアイデアが紹介されます。観察と周回の参加を通じて一番印象に残ったのは、“Ho‘omau i nā ike o nā kupuna” 「先人たちからの知恵を継承する」ということです。技術の革新やそれに伴う生活様式・価値観の変化で、私達の暮らしぶりは先人たちのものから大きく変わりました。しかし、時には「利便性や効率中心」を脇に置いて、古い詩歌・文書や、昔からの姿をとどめようとする自然から学ぶことが多いからです。

ハワイの格言で、本稿を締めくくりたいと思います。“He a‘ali‘i ku makani mai au: ‘a‘ohe makani nana e kula‘i.” 「私は風の中のアアリイ。どんな風も私をたおせない」。どんな困難に見舞われても諦めない、忍耐と希望が込められています。

Na‘u nō me ka ha‘aha‘a.

心より敬意を込めて

Reference

Pukui, M. (1983). 'Ōlelo No 'eau. Bishop Museum Press: Honolulu.

(ふ・あけみ 准教授／教員養成センター長)
